翼をありがとう

福島県骨髄バンク推進連絡協議会・会報

No.10
平成8年4月10日
■発行■
福島県骨髄バンク推進連絡協議会
会報編集委員会
いわき市好間町柳小屋字小畑133-3
㈱ 邑建築事務所内
TEL0246-36-3456 FAX0246-36-3538
■発行責任者■
陽田秀夫

ドナー登録七万人突破

福島県も千人へ

2月末

ここ二年程、低迷していたドナー登録も最近、蔵間さんのテレビCMが始まってから少し回復して来ました。

二月末で七〇、二八二人となり予定のペースよりだいぶ遅くなりましたが、ようやく七万人を突破しました。五年で十万人登録を目標に運動を進めて来ました。残すところあと十ケ月で三万人はとても厳しい数字です。しかし、休まず運動を継続して行くことが十万人、さらには二十万人登録への積み重ねと考えて、あせらず草の根の運動を展開して行きたいと思います。

福島県内の登録者数も九九九人と千人まであと一人のところまで来ました。

県内の登録者数を人口比で計算すると、全国平均より少し下廻っているようです。郡山、白河、原町の三保健所でも登録できるようになった事のPRがまだまだ十分なのでしょうか。ハガキで登録申し込みをされたのに未だ登録されていない人が県内で七六、九人もいらっしゃるのです。登録場所が遠所柳のために延びのびになっていた方は県内の登録施設案内（3面）をぜひご参照下さい。

「チャンス!」の福島県版完成

骨髄バンクの登録用パンフレット「チャンス!」の改訂にともない福島県版も全面改訂しました。県のパンフレット用予算により作成されました。

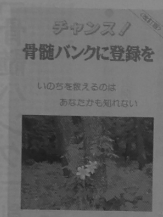
財団のチャンスより四ページ増し、県内の実際に骨髄提供をされた方々のメッセージを載せています。

波多野さん、齋藤さん、佐藤さん、清水さん、それぞれのきっかけや提供後の感想等、身近な四人の方々の優しさが伝わって来ます。これから登録しようとする方々に安心感を与えてくれるものと期待しています。

また県内の登録施設六ケ所を地図、住所、電話番号、登録受付日時等、わかりやすく表示しています。

登録についてのお問い合わせ先として県の医務福祉課の他、県内十八保健所の一覧表も載せています。

さらに、写真家の五島健司さんの写真・表紙を飾っています。五島さんのご好意によって実現しました。五島さんご自身が最も気に入っている写真をお願いしたのですが、出来上がったパンフレットの表紙には森の中の松の大木の根元に寄り添うように咲く二輪の百合の花でした。



平成八年度バンク関連

県予算決まる

平成八年度の骨髄バンク関係予算が決まりました。

骨髄バンク普及広報予算として県内二ケ所でのシンポジウム開催と県内キャラバンにて県内十八ケ所の登録用パンフレット作成費として三十万円計上されました。

それぞれのイベント開催については後日一回の実績のとうり当協会に委託されると思われます。

JC福島ブロック

新春講演会で骨髄バンク

日本青年会議所福島ブロック協議会（会長白石高司）の会員会議所が二月四日郡山ビューホテルANで開催されました。各会議の後、骨髄バンクをテーマに新春講演会が企画され、講師に「金色のクジラ」の原作者岸川悦子さんを迎え、「いのちの童話を書き続けて」と題した講演が行なわれました。その後岸川さんを囲んで白石会長と骨髄バンク協議会から陽田秀夫と吉田麻里が加わって骨髄バンク座談会を行ないました。

岸川さんの敬今体験に始まる命についての話には、各JCの方々に深い感動を与えたようです。講演後の懇親会で岸川さんにさっそく講演依頼をするJCの方もいらっしゃる程でした。

今年のJCの皆さんの骨髄バンクに対する理解と取り組みに一層の期待が持てる一日でした。

多くのドナーの方々に支えられ骨髄移植によって甦った患者さんの人生を思わず連想してしまいました。

より多くの県民の方々にご理解をいただけるような企画ですのでご自分の方々のご協力よろしくお願い致します。

またその他に保健所登録予算三ケ所分も計上されています。

骨髄バンク事業の概要

（(財)骨髄移植推進財団発表）

ドナー登録者数、患者登録者数及び骨髄移植例数

（平成8年2月末日現在）

	全国合計	福島県
ドナー登録者数	70,282人	999人
患者登録者数	3,824人	55人
骨髄移植例数	674例	（データー無し）

HLA適合患者・ドナーの状況　（平成8年3月7日現在）

患者の状況	
検索依頼患者数	3,825人
2次検索(DR座)適合患者数	2,657人
ドナーの状況	
1次検査（A、B座）適合ドナー数	59,184人
2次検査（DR座）実施済ドナー数	48,359人
2次検査（DR座）適合ドナー数	9,922人

Fukushima
福島県骨髄バンク推進連絡協議会
事務局/〒970-11 いわき市好間町柳小屋字小畑133-3
TEL0246-36-3456 FAX0246-36-3538

県北支部
〒960
福島市北沢又字横縄6-1(赤間方)
TEL&FAX0245・58・4040

会津支部
〒965
会津若松市門田町大字徳山字中338-1(青木方)
TEL0242・83・0552

郡山支部
〒963-07
郡山市田村町金屋字上川原129-1(松本方)
TEL&FAX0249・44・5762
大越連絡所(松崎方)
TEL0247・79・2467

いわき支部
〒973
いわき市内郷御厩町久世原16
いわき市立総合聖城共立病院成分輸血室内
TEL0246・26・3151
(内2284)

県南支部
〒978-04
石川郡浅川町大字大明原6-1(花月庭園内)
TEL0247・36・4646
FAX0247・36・4649

はじめまして

財団地区普及広報委員になりました

遠藤幸恵（本宮町）

初めまして、ドナーであるだけではなく、私も何か出来ないかと思い、今回応募して委嘱を受けました。

私がドナー登録して今年で三年目になります。二次検査の依頼があった時、もしかしてと期待を持ちながら検査しましたが、その後連絡なく今に至っています。

人との出会いは不思議ですばらしいものです。その人に出会わなければ看護婦になろう、まして知らない人の為にドナーになろうとも思わなかったでしょう。そんな私が迷いもなく、ドナー登録しようという気持ちが生まれたのは、白血病の兄がいる友達を知ってからです。しかし、そのお兄ちゃんは二十五歳の若さで生涯を閉じました。その友達から、「偶然にも会社に兄と同じ病気に冒されている人を知り、兄に出来なかったことをその人にしてあげることで休まず運動を継続して行くことが十万人、さらには二十万人登録への積み重ねと考えて、あせらず草の根の運動を展開して行きたいと思います。

福島県内の登録者数も九九九人と千人まであと一人のところまで来ました。

県内の登録者数を人口比で計算すると、全国平均より少し下廻っているようです。郡山、白河、原町の三保健所でも登録できるようになった事のPRがまだまだ十分なのでしょうか。ハガキで登録申し込みをされた方が中心になってバンダハウスを建設しようと頑張っています。

バンダハウスとは、白血病などで長期入院を余儀なくされている子供達に、外泊できるようにと、患者さんやドナー登録しても家族の反対にあう人もいます。少しでも多くの方々に関心と理解を持って頂く為に活動していきたいと思います。「人でも多くの患者さんにドナーが見つかりますように。そして骨髄バンク運動、他のボランティア活動が大きくなれば、人と人とのつながりが強くなり人間性が高まり、人間らしい生き方が出来るようになるのではないでしょうか。

天国にいる兄が喜んでくれればいいと思う。」との手紙が届きました。兄の死は悲しいはずなのに、力強さを感じました。また、白血病という病気は私達に関係のない病気ではないことも感じました。ドナーになることで、患者さん達に生きるすばらしさを感じて欲しいし、健康である私自身がそう思える自信でありたいと思い、登録しました。

最近、ドナー登録が低迷しています。またHLAが適合しながら骨髄移植をしても、うまくいかなかったらと受けられずにいる患者さんやドナー登録しても家族の反対にあう人もいます。少しでも多くの方々に関心と理解を持って頂く為に活動していきたいと思います。「人でも多くの患者さんにドナーが見つかりますように。そして骨髄バンク運動、他のボランティア活動が大きくなれば、人と人とのつながりが強くなり人間性が高まり、人間らしい生き方が出来るようになるのではないでしょうか。

頑張っています

バンダハウス

昨年二月から福島市内のお母さん方が中心になってバンダハウスを建設しようと頑張っています。

県立医大には県内各地はもとより、県外からも多くの子供達が入院し治療を受けています。近隣の子供達は、時に外泊を許可されて自分の家に帰ることができますが、遠来の子供は簡単には帰れず、病院内の何の味わいもない環境の中で生活し続けなければなりません。

自らの子供さんが、長期入院をした経験を持つ福島市内のお母さんが呼びかけて、バンダハウス建設運動が続けられています。多くの協力者を得て、募金活動やバザー等精力的に推進して今年中には完成させようと張り切っています。

主旨に賛同される方はぜひご協力下さい。お問い合わせ先は堀越（やさん（〇二四五―二二―二一〇八）

心からのご寄付をありがとうございました

平成7年12月～平成8年3月受付分

平成7年度

《本部受付分》

募金

陽田秀夫	20,000
太田緑子	30,000
番場正宏	10,000
服部進　仁美	10,000
内村彰和	100,000
丸一タイル商会	150,000

《県北支部受付分》

募金

二瓶正江	10,000
武旅宇子	10,000

《県南支部受付分》

募金

立教志塾	6,000
小野利広	10,000

《いわき支部受付分》

募金

いわき平青年会議所	83,000
磐城共立病院募金箱	61,036
安斉一夫	10,000
掛札達子	100,000
福島ルート産業㈱	100,000
いわき平ロータリークラブ	50,000
いわき平青年会議所甘酒有志	50,000
吉田麻里	10,000
街頭募金	16,864
陽田秀夫	15,000
磐城共立病院匿名	2,879
匿名	122,440

《会津支部受付分》

佐藤　淳	50,000
吉田幸代	20,000
会津ユネスコ協会	20,000

《各支部受付（ハガキ・切手・テレカ）》

石川地方町村会	（ハ）47枚
青木恭介	（ハ）4枚
渡辺重男	（ハ）32枚
石井新一	（ハ）47枚
いわき共立病院匿名	（ハ）34枚
清水美智恵	（ハ）18枚
大竹友恵	（ハ）7枚
青木恭介	（切）1,028
渡辺重男	（切）650
志賀久美子	（切）762
大竹友恵	（切）260
街頭募金	（テ）50×3枚

（敬称　略）

骨髄バンクのボランティア活動はすべて募金・寄付によって行なわれています。皆様のご支援をよろしくお願い致します。

［郵便振替口座番号］　02170－6－13321

加入者名義　福島県骨髄バンク推進連絡協議会

テレフォンカード紹介

骨髄バンク専用フリーダイヤル
☎0120-377-465

骨髄バンク専用フリーダイヤル
☎0120-377-465

各1枚1,000円（50度数）収益金は活動資金とさせて戴きます。

編集後記

今年の春休みは自主上映のとても良い映画がいわきに来た。一本は金色のクジラの原作者、岸川悦子さんの作品「五等になりたい」のアニメ映画で多くの子供達に感動を与えた。

もう一本は韓国で三千人の孤児達の母として一生を捧げた日本人女性の映画「愛の熱示録」。

いずれにも上映実行委員会のメンバーとして骨髄バンクの協議会も入ってほしいとの依頼があり、あまりお役に立てなかったが、喜んで参加した。特に「五等になりたい」は小学校で学校上映できたらと思う。とても良い作品だった。子供達に入を思いやる優しさと勇気を伝えたい。（陽田）

ねむっていませんか?切手・はがき

書き損じのはがき・使う予定のない切手・はがきをくださいませんか

骨髄バンク運動に有効利用します

福島県骨髄バンク推進連絡協議会☎0246・36・3456

（送り先）1めん記載の最寄りの支部へお送り下さい。

～情報誌「骨髄バンク」創刊～ 全国協議会

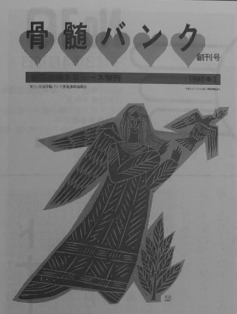
毎月皆さんのもとに届いている「全国協議会ニュース」の増刊号として、情報誌「骨髄バンク」創刊号が一月に発行されました。

これは、今日まで骨髄バンクに関する情報が極めて公開を制限されている状況にあって、より多くの情報をより深く広く関係者と一般の人達に知ってもらうために発行されたものです。

骨髄バンクにとって、何がいま重要であり、何が問題で、何が必要なのかをこの情報誌で明らかにしていこうというものです。

年に二回の発行を予定しています。今回の創刊号はB五版百十二ページにおよぶ内容で、主な掲載内容は左記の通りです。

◆日本の骨髄移植の草分け
◆移植患者の手記
◆骨髄ナーナの日記
◆座談会「医療改革も視野にいれて
◆骨髄移植医療体制の理想を求めて」（公開シンポジウムより
・日本の骨髄移植医療体制の現状
・欧米におけるセンター化の意義
・座談会「望まれるわが国の未来像」
◆骨髄提供に対する同意に関する法律的側面
◆日本骨髄バンクのデータ分析
◆エッセイ「チャンス」
◆手をつなごう！アジア太平洋の骨髄バンク」
◆「日本骨髄バンク」の創成期を振り返って
◆弁論大会優秀「私を変えた出会い」
◆緊急提言「あと1年」でやるべきこと
◆骨髄移植関連最新医療情報
①CD34陽性細胞による骨髄移植
②固形ガンと造血幹細胞移植
③臍帯血幹細胞移植療法と臍帯血バンク
④骨髄移植と遺伝子治療



以上がまだ内容ですが、全国骨髄バンク推進連絡協議会運営委員会福島県の運営委員長でもある陽田秀夫氏が

◆わが家の骨髄バンク運動
◆「妻から宿題」
◆骨髄移植書籍一覧

『ボランティアの集い』で各種ビデオ上映

三月十日（日）、社協ボランティアセンターで開かれた「第九回郡山市ボランティアのつどい」の視聴覚コーナーに、骨髄バンクの事を少しでも多くの人に理解して頂こうとバンク関係の各種ビデオを準備し連続上映しました。その中で、やり「人気が高く、『金色』が終まると高校生や子供達の親子の姿が多く目立ちました。

「妻からの宿題」と題し、骨髄バンク運動との関わり、妻茂子さんへの思いを語っております。

一部五百円で一般販売も行なっておりますので、ご希望の方は事務局または最寄りの各支部までご連絡下さい。

総数的には延人数で約八〇名の入場者があり、会場の中には販売コーナーを設け、ビデオの巻展しの間、数種類のバンク関係の書籍やテレカなどの販売も行いました。

「ボランティアの集い」は二部構成になっており、午前中が一部で、ラジオ福島の大和田新さんの記念講演があり、二部がセンター全体を開放し、各地域ボランティアや目的ボランティアのそれぞれの体験発表や伝承遊びなど行っておりました。

ラジオ「微笑がえし」

RFC大和田新さんの番組で

2月23日「マル得ふくしま」に出演した大和田（右端）、吉田（中央）、関根（左端）さん

「微笑みがえし」ラジオで放送

ラジオ福島アナウンサー大和田新さんが、「微笑みがえし」白鳥病と闘う家族たちの絆」と題した番組を企画して下さいました。

大和田さんは日頃から骨髄バンクの重要性をラジオを通してリスナーの方々に訴えかけており、またこれまでに何度もご自身の担当する番組の中に骨髄バンク関連の放送を組み入れて下さっています。

「今回の『微笑みがえし』は、一月二十八日に一時間の特別番組として放送されました。

番組には陽田秀夫さんと長男高広さん、長女有紀子さん、大石邦子さん、磐城共立病院の齋藤明先生、郡山の清水照雄さん県南支部の関根政雄さん、そして吉田麻里が出演しました。

三年前に慢性骨髄性白血病でお亡くなりになった陽田茂子さん、その茂子さんとの想い出を陽田さん親子、大石さん、齋先生が語って下さいました。

また、ドナー経験者の齋先生と清水さん、骨髄移植経験者の私もそれぞれの立場で話をし、関根さんは骨髄バンクと関わるようになった経緯などを語りました。

「テレビでも本の紹介」

テレビユー福島で放送中の「マル得ふくしま」（月～金・午前10時20～）に二月二十三日、大和田新アナウンサーが出演することになり、「微笑みがえし」の本の紹介と骨髄バンクのPRをしていただきました。当日は関根政雄さんとわたくし吉田も一緒に出演させていただきました。生放送でしたので私も関根さんも緊張していました。番組が始まりスタジオの片隅で出番を待っていると、なんと大和田さん緊張していたのです。

「大和田さんでも緊張することがあるんですか？」という私の質問に「いやーテレビは緊張するよ、それより今日、目はりを入れるの忘れちゃったよー」などと真顔で言って笑わせてくれました。

今回、このラジオとテレビの放送をお聞きに（ご覧に）なり、それぞれの番組にお葉書を下さった方の中から十名、ご応募の方の中から十名、計二十名の方に、「微笑みがえし」の本をプレゼントいたしました。（吉田麻里）

「地方骨髄センターの役割」と「献血の現状」

福島県赤十字血液センターおよび福島県骨髄データセンターより「地方骨髄データセンターの役割」と「献血の現状」について原稿をいただきましたので、掲載致します。

会員の皆さんの献血へのご協力もよろしくお願い致します。

福島県赤十字血液センター　福島県骨髄データセンター　所長　渡辺岩雄

1．地方骨髄データセンターの役割

非血縁者からの善意による骨髄提供を目的とした（財）骨髄移植推進財団が発足したさい、日本赤十字社は、国からの委託により、地方自治体、（財）骨髄移植推進財団等において、骨髄移植について十分な説明を受けた骨髄提供希望者の受付、HLA型検査、登録、データの管理等の業務を行っています。

なお、平成六年一〇月から県内の白河、郡山、原町の三保健所で受け付けられ登録者のHLA型検査も行っています。

2．献血の愛の一滴大きな命―一九九五　福島県献血標語コンクール最優秀作品―

はじめに

日ごろ、献血運動の推進にあたりましては、皆様から暖かいご理解とご支援を賜り、深く感謝を申し上げます。

献血は、患者さんの命を守ることをすべてに優先された、愛の活動です。

福島県では、医療機関が必要とする輸血用血液の需要量と、そして現代医療に欠かすことのできない血しょう分画製剤（血友病の患者さんが必要とする血液凝固因子製剤等）の原料となる血しょうの確保量を踏まえて、毎年献血者の目標数を定め、県献血推進協議会（会長　福島県副知事）の協議を経て、その目標達成に向け関係機関をはじめ県民の皆様のご協力をいただいております。

なお、平成八年度の目標数は一〇八、〇〇〇人となっております。

(1)献血の現状

1)安全性の高い血液確保

献血を進めるうえで重要なのは、血液を必要とする患者さんら方に常に安全な血液を供給しなければならないことです。

血液センターでは、血液型の検査やウイルス等の感染予防のために厳しい検査を行い、より安全性の高い血液の供給に使用されるよう、最大の努力をしています。

しかしながら、輸血についてはその副作用の全てが解明されているわけではありません。

医療に必要とする血液の安全性を高めるためには、成分献血の推進が有効であるとされています。

輸血は、これまでは、できるだけ少人数からの献血をもとにした輸血が望ましく、また、医療機関の輸血は二〇〇〇ml献血による血液が主流となっています。成分献血の場合は、血しょうや血小板といった「成分」のみを輸血していただく方法でさらに患者さんにとっては少人数から輸血ですみます。

◆問診内容の充実

献血者の皆さんに、健康状態などについて幅広く質問し、より輸血の安全性を高めていきます。

問診内容の充実は、輸血用血液の安全性を高めることと、献血者の健康の両方にメリットがあります。

(2)年間を通じた血液の安定供給

ここ数年、献血者は減少傾向にあります。さらに、夏場や冬場には献血者が減少しています。輸血用血液は長期の保存ができません（血小板は有効期間が二十一日間）から毎日一定の量が必要です。

そのため、血液センターでは献血者登録制度などを設け、緊急に血液が必要になった時血液センターの呼びかけにより、献血をお願いしています。

最後になりましたが、「献血の一滴大きな命」献血は貴い命を救うあなたからの大きなプレゼントです。

<コンテスト>
第1回白衣デザインコンテスト
では優勝した作品を発表いたします
審査員
CHIEF
背中丸見え
ウフフ。どうかしら。
ミニスカート
はは！ おもてなしなんて。
はは！ おもてなしなんて。
はは！ おもてなしなんて。